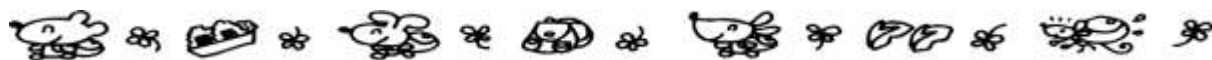


城っ子の未来を拓く

愛南町立城辺小学校
防災教育だより
2026.7.7 NO.5



7月になり、夏らしい季節となりました。

6月の下旬ごろ、B&G の職員の方をお迎えし、水辺の安全教室が各学年で実施されました。当日は、長袖・長ズボン・靴など、普段の生活を想定した服装で実施されました。普段の水泳の授業とは服装が違うため、少し違った雰囲気です。授業がスタートしました。

今回は、水辺の安全教室で実施したことをポイントにまとめて紹介します。

1. バディの意味の確認

まずは、「バディの意味は？」という問いかけからスタートしました。バディには、「ペア・仲間」などの意味があります。水泳における「バディ」とは、2人1組(あるいは3人1組)の仲間のことで、お互いの安全確認や健康状態の観察、緊急時の救助を行うことで事故を防ぐ目的があります。子どもたちは、水泳の授業の中でも「バディ」を実施していますが、今回は、バディの意味を再確認する時間となりました。

2. 入水の仕方の確認

入水する前には、シャワーを浴びる必要があります。水泳の前にシャワーを浴びる主な理由は、「体の汚れを落として水質を保つため」と「水温や水圧に体を慣らし、心臓への負担や恐怖心を和らげるため」の2つがあります。シャワーを浴びた後は入水です。心臓から離れた部分から水をかけていくことを教わり、足・腕・肩・背中・頭の順番で子どもたちはゆっくり水慣れをしていきました。



1年生



3年生



5年生

3. 浮く

「実際に助けを求めるときにはどうするのか。」「身近にある浮くものは何があるのか。」みんなで一緒に考えたり自分の生活を思い出したりしました。今回は、大の字で上を向いて浮かぶことや2リットルペットボトルを利用した浮き方を実践してみました。少しでも力が入ったり声を出したりしてしまうと沈んでしまうことを体験しました。

4. 着衣泳をする目的

水を吸った衣服や靴はとても重くなり、手足が思い通りに動かなくなります。水中での「動きにくさ」や「水の抵抗」を事前に体で体験しておくことで、不慮の事故の際にパニックに陥ることを防ぎます。実際、子どもたちからも「動きにくい」「脱ごうとしても脱げれない」などの声が多く聞こえてきました。水の事故はいつどこで起こるか分かりません。自分の命は自分で守れるようになってほしいと思います。